

都市景観の形成とその要因に関する研究

Study on Landscape Formation and its Factors

榑 原 和 彦

Kazuhiko Sakakibara

本研究は、望ましい都市景観形成を図るための手段・手法を提案することを最終的な目標としつつ、都市景観構成要素の諸相を把握し、その形成要因や変成メカニズムを都市景観形成プロセスとの関連において明らかにしようとしたものである。

研究目的を達成するために、①内外の都市景観マネジメントの制度とそれに基づく景観形成の諸相についての調査・研究、②道路・地下街など都市開発プロジェクトと都市景観形成の関わりに関する調査・研究、③都市景観形成に関わる都市開発プロジェクト・制度についての情報のデータベース化、を行った。

1 内外の都市景観制度と景観形成

わが国に関しては、計50都市の景観条例ならびに都市景観形成を調査・分析し、各都市の景観形成の仕組みと実状を把握した。

外国については、米・英・仏・伊・独の主要都市における景観形成に関わる制度と実状について、現地における調査・資料収集を含め、実地・文献調査を行うことによって、国別・都市別の特徴を把握した。なお、現地調査を行った都市は、ロンドン、パリ、ベルリン、ローマ、フィレンツェ、ミラノの他、アッシジ、アレッツォ、シエナ、ウルビーノを含むイタリア中部山岳都市であった。

2 都市開発プロジェクトと景観形成

日本においては、東京臨海副都心および福岡市の各種都市開発プロジェクト、さらには、大阪市の新地下街（ディアモール大阪、クリスタ長堀）その他の都市開発プロジェクトに関して調査・分析した。海外では、ロンドンのドックヤード地区再開発、パリのパサージュ、グラン・プロジェ、イタリア諸都市の歴史地区（チェントロ・ストリコ）保存再開発計画、ベルリンの首都機能移転に関わる再開発計画などを中心に調査・分析を行った。

以上の調査・分析のうち、特に都市的インテリア空間（日本の地下街や大規模集積ビル開発、ヨーロッパにおけるパサージュやガレリアなどで、これをまとめてアーバン・インテリアと呼んでいる）に関する部分については、発表論文1）、2）にその分析結果の一部を掲載している。

3 景観形成プロジェクト・制度の情報ベース化

上記の景観形成プロジェクトや制度に関わる調査・分析結果については、コンピュータ情報ベース化を行っている。この内、特に道路・都市内街路に関わる情報については、既存道路デザイン情報ベースに取り込んで道路デザイン支援情報システムを構成しているが、これについては、発表論文 3)、4) に内容を掲載している。

《発表論文》

- 1) 榑原和彦、ペリー史子、土橋 正彦：アーバン・インテリアとしての地下街の空間意識に関する研究、日本インテリア学会論文報告集、9号、1999年3月。
- 2) Fumiko Perry, Kazuhiko Sakakibara, Naoyuki Tsukamoto: Virtual Reality Simulation of Urban Interior and Analysis of Space Sense, Proceedings of 1999 International Conference in Computers in Urban Planning and Urban Management, Sept. 1999.
- 3) 榑原和彦・福井義員・谷口興紀・パタン・ランゲージの手法による道路デザイン支援情報システムに関する研究、土木計画学研究・論文集、No.15、1998年9月、pp.369～377。
- 4) Kazuhiko Sakakibara, Yoshikazu Fukui, Okinori Taniguchi, Fumiko Perry: A study on the Road Design Information System by a Pattern Language Method, Proceedings of 1999 International Conference in Computers in Urban Planning and Urban Management, Sept. 1999.